

トキからのメッセージ ②

●野鳥と自然を知るためのやさしいパンフレット
(度、いの鳥)シリーズは、いままで違う、新しい鳥
①前にいる鳥の写真を見に自然の中へお出いきまし。1冊
送料は200円。ご希望の方は代金を切手で、送り明記のうえお付
ください。売上げ料金は日本鳥類保護連盟に寄贈されます。
宛先:〒103-01 東京都千代田区永田町21号
サントリーニ株式会社 重島キャンペーン係



トキの未来を 世界中が注目している



捕獲されたトキは、いま…

過去5年間、野生状態では数が増加せず、「親鳥を捕え、人工的に管理して増やす」という保護策のもとに実施されたトキの捕獲は、先月無事終了して、いよいよ飼育の段階に入りました。5羽のトキは、捕獲順に2羽、2羽1羽に仕切った新潟県トキ保護センターの特別ケージで、刺激を与えないように静かに飼育されています。まだ未確認ながら、ペアは夫婦、もう1羽はメスらしいということです。

えさは、小魚などの生き餌と、人工飼料も置かれています。将来のことを考えれば、栄養のバランスのとれた人工飼料(マトンと各種の栄養素)に移つてほしいところですが、いまの段階では、まだ無理のようです。それでも、ペアでない1羽は早くも餌づけに慣れ、人工飼料に対しても興味を示し、まだ食べではないものの、わえたり水で洗ったりしています。保護センターでは、このトキがいちばん最初に人工飼料を食べる可能性が強いと期待しています。

こうして5羽のトキは、すでに飼育されているトキの「キンちゃん」とともに、新しい環境の中で生活をはじめたわけですが、6羽のトキについて、まだまだ問題はたくさん残っています。繁殖できる年齢は何歳ぐらいまでだろうか、捕えたトキは何歳だろうか、飼育ケージに早く馴れてくるだろうか、伝遺学的に丈夫な体質なのだろうか、など、今までの調査研究ではっきりしない推定の部分があるために、人工管理が成功につながるとい

保証はありません。これらの点については、環境庁に設けられたトキ保護の委員会でそれぞれの分野の専門家によって討議した結果、捕獲実施となったのです。絶滅の危機にある生物を救い、自然環境の保持に努めるのは人間として当然の義務であり、まして日本で危機を迎えていたトキではないか…というのが、日本鳥類保護連盟の考え方であり、主張でした。

トキの未来は日本鳥類保護の未来

トキは、江戸時代には北海道から九州まで棲んでいました。それが、朱鷺色というこの鳥独特の美しい羽毛が狙われたり、白くて目立つて鉄砲の的になつたり、とくに明治維新後の政治経済の秩序が混乱した時代に殺されて、減少の大きな原因になりました。また、近年、巣をつくる林を伐り、えさになる小魚・昆蟲・サワガニがいる水田を減らしたり、農薬で汚し、トキの体に異常を及ぼさせたりしたこと、減少に拍車をかけました。

トキに限らず生物界には「種」の盛衰があり、その歳月は、きわめてなかいものです。ヒトが出現する前はさておき、人類が地球に誕生した以後、生物が滅んだ事実は500年前ごろから多くなり、とくにこの200年間はひどい状態になりました。これに気づいた先進国は、保護のための努力を続け、日本でも、「経済大国ではあっても自然保護小国だ」などと外国の保護団体から批判されながらも、ようやく保護推進への動きがきざしました。

いま、トキの将来を世界中の「自然を愛する人々」が注目しています。それは、単にトキのゆええを心配したことだけではなく、実は、私たち日本人の自然保護の心を見つめる統いまなざです。日本鳥類保護連盟は、自然保護大国ニッポンを目指して、野生鳥獣に関する科学的知識と鳥獣保護の精神をひろめていきたいと考えています。みなさんのひとりひとりが、身のまわりの小さな自然を見ることから始めてください。そして、地域の自然へ、環境へと目を向けてください。小さな輪が大きくひろがり、自然保護の強い力となることを、トキたちも願っているはずです。



財團 法人 日本鳥類保護連盟
サントリーニ株式会社

●この広告は、日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリーニ株式会社がリーズとして制作し、原則として毎月第三曜日に掲載いたします。

56.2A-SAI